

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点																											
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②一領域の協働へ向かう個の見届け ③地域生活の充実 ④生き生きと働ける学校づくりの発信 一人ひとりの子に居場所をつくる	学校の教育目標	資質・能力	学習	①教科指導の充実 ①個に応じた学習指導の充実 ①効果的なICTの活用	・個々の意見を表出させる授業づくりを行う。 ・数学科と英語科において、習熟度別学習を実施する。 ・タブレットの効果的な活用方法を工夫する。	B A B	・挙手発言、呟き、記述(ノート、メタモジ)等、表出の場を明確にした。表出につながる発問を意識するなど授業改善を図っている。今後も、生徒の姿の向上を目指す。 ・習熟度別学習が、生徒たちにも浸透し、自分を伸ばすために学ぶ姿が増えた。保護者評価においても98%がよいと回答。 ・職員対象に、Metamojiに関わる実態調査を実施し、その結果をもとに、学習会を行った。継続活用で、技能の向上につなげる。																											
									自らの考え・人との違いを大切に、表出する力	生活	②「新しい自分づくり」の心を育てる指導の充実 ②よりよい仲間関係の育成	・目標(なりたい自分)を明確にもたせるとともに、仲間の「新しい自分づくり」を尊重する集団を育成する。 ・厳しい指摘ができるリーダーの育成と、独りぼっちに関わる温かい集団の育成を行う。	B B	・目標設定時や毎月のふり返りでの指導を大切に。目標記入用紙も視覚的に見やすくし、全校統一して活用した。 ・日常生活や体育祭、合唱祭等の行事において、リーダー指導と支える仲間の指導を大切に。今後も、温かい集団の育成を行う。																					
															地域との協働・連携	②奉仕活動への意識の向上	・学校評価「よりよい人間関係を築いている」の評価を90%以上にする。	A	【学校評価結果】生徒:90% 保護者:95%																
																				③郷土学習「にゅうかわ学」の充実	・國學院大學との共同研究の推進や系統性のある年間計画の改善を行う。	A	・改編カリキュラムで実施した。学部長西村氏より全校講話とCM発表会での講評をいただいた。次年度は、いよいよ國學院大學ゼミ学生との交流活動をスタートする。												
																								③関係諸機関、関係団体との効果的な連携	・学校評価「地域の魅力を学ぶことができている」の評価を90%以上にする。	A	【学校評価結果】生徒:90% 保護者:89%								
																												③PTA組織と活動の見直し	・「学校運営協議会」と「すくなくっ子教育連携会議」の活動の明確化と、持続可能な組織作りを行う。	A	・両組織を明確に分け、活動内容を一新し、3部会の具体的活動がスタートした。より持続可能となるよう委員の動き等の改善を図る。				
																																学校運営協議会における主な評価内容	・小学校PTAと連携し、組織や活動の改編を行う。	A	・PTA副会長の役割と部会の活動内容を改編し、学年委員を半数とした。地区委員における小学校との連携をスタートする。

○授業におけるタブレットの活用に工夫が見られた。また、ノート記述が良い生徒が多い。  
 ○今年度の丹生川地区出生数は、10人である。将来、義務教育学校等の検討が必要となると考えると、今、実施している小中連携や小中兼務は素晴らしいことである。ぜひ、続けてほしい。  
 ○ボランティア活動が活発でよい。主催者側としては、ただの人足としてではなく、子ども達が何を学ぶのかを考え実施していきたい。  
 ▲授業において、教師の話す時間が長い。より子ども達に考えさせ、子ども達が話し合う時間を生み出したい。  
 ▲家庭におけるスマートフォン等の使用状況が心配である。地域としても何か発信できないだろうか。